

補助事業番号： 19-127

補助事業名： 平成 19 年度 アジア諸国との経済交流等促進補助事業

補助事業者名： 財団法人 貿易研修センター

1. 補助事業の概要

(1) 事業の目的

激動するアジア地域において機械工業を中心とするわが国産業界が円滑な経済活動を確立し、持続的な発展を図っていくためには、企業単独の努力や政府レベルの取り組みだけでは必ずしも十分とはいえず、民間の活動と国の政策を密接に連動させ、補完支援する役割が不可欠である。こうした観点から貿易研修センターでは、アジアの主に経済産業に関するテーマを取り上げた講演会、セミナー、調査研究等の各種事業を積極的に行うことにより、わが国の機械工業等を取り巻く国際的な事業環境の変化をいち早く捉え、最新情報として行政機関や企業等に提供し、一方ではそれらの情報を基にして策定された政策や企業の活動がより効果的・効率的に実現できるよう多様な分野とレベルにおいてアジア諸国との相互理解、人材育成を促進するなど、対外経済活動の側面支援を行うことにより、アジア地域におけるわが国機械工業等の振興に寄与することを目指す。

(2) 実施内容

① アジア問題講演会・研修会

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec.html>

ア. アジア月例講演会

アジア地域のタイムリーな情報の提供と意見交換を行うため、アジア問題専門の学識経験者やアジアから来訪する各国要人を講師として、その時々に関心の高い演題で月例講演会を実施した。参加者はアジア問題に関連する関係官公庁、学術研究調査機関、民間企業などの中堅以上の幹部職員を対象としており、講演内容は、要旨をホームページなどで広く公開するとともに、詳細な講義録、関係資料は主要関係機関及びIISTアジアメンバーズに提供している。19 年度においては、以下のとおり特別講演会 1 回を含む計 11 回の講演会を実施した。月例講演会の参加者数は1回当りの 50～60 人で、10 回分の延べ人数は 501 人、これに特別講演会の参加者 150 人を含み、総計 651 人にのぼった。

イ. テーマ別研究会

「IIST アジア研究会」

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec.html#002>

我が国をとりまくアジア地域が抱える現下の喫緊の課題に取り組み、経済政策とりわけアジア政策の立案、推進に参考となる情報と分析成果を提供することを目的として実施した。非公開による例会を全 4 回開催し、延べ 76 名が出席。年度末に行った公開シンポジウムには一般参加者も含め計 87 名が出席した。なお、第 1 回～第 4 回及び公開シンポジウムの報告記録はセンター及び IIST アジアメンバーズ専用ホームページ上にて公開提供している。

「IIST・中央ユーラシア調査会」

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/lec.html#003>

我が国において調査、研究の遅れている中央ユーラシア地域の政治、経済、産業、文化、歴史等全般について基礎的な調査・研究を行い、各国を専門とする研究者、現地経験者等のメンバー相互に情報交換し、討議することによって、当該地域に関する認識を深めることを目的とする 19 年度は第 73 回～第 83 回まで非公開による例会を全 11 回開催し延べ 252 名が出席。年度末に行った公開シンポジウム(第 84 回とする)には一般参加者も含め計 140 名が出席した。なお、第 73 回～第 83 回及び公開シンポジウム(第 84 回)の報告記録はセンター及び IIST アジアメンバーズ専用ホームページ上にて公開提供している。

②アジア新市場開発ミッション派遣

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/business.html>

アジアにおいて今後発展の可能性の高い地域や産業分野について、我が国との貿易・投資関係拡大の可能性、新ビジネスの可能性などを探求するため、我が国の学識経験者、産業界の有識者などからなるミッションを派遣し、訪問国の産官学各界の有識者との意見交換を通じて問題点を把握するとともに、その解決に向けて国内産業界や政策当局に情報提供することなどを通じて、当該産業や新市場の育成、発展に寄与することを目的として実施した。19年度においては、現下の経済関係の重要性、市場の将来性等を勘案して、メコン地域を対象に、「メコン圏経済交流促進ミッション」、及び「ラオス SEZ 政策後方支援ミッション」の2件のミッション派遣を行なった。

1)メコン圏経済交流促進ミッション

メコン地域におけるソフト面での日本の協力に対する関心と期待の度合いを調査するとともに、将来の対メコン支援にあたっての日本側の協力体制構築も念頭に、情報処理、標準化、製品安全、省エネ・新エネ・環境、知的資産、中小企業、人材育成等の分野の専門的、知的リソースを有する国内の関係機関・団体からなるミッションをカンボジア、ラオスに派遣し、訪問国の経済社会諸環境を把握し、日本のリソースに対する現地側の要望を聴取した。

2)ラオスSEZ政策広報支援ミッション

メコン地域の経済開発への動きが加速するなか、経済特別区(SEZ)開発による外資誘致への期待が高まっているラオス政府からの要請を受けて、SEZ 開発分野の専門家を派遣して、サバナケット県の SEZ 開発の現状視察、政府要人等との意見交換を行なうとともに、ラオス政府等との共催によるシンポジウムを開催した。

③アジア若手有望指導者招聘

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/young-leader.html>

12月16日～23日 「中国共産党青年幹部代表団」事業実施

アジア諸国の行政機関、産業界、学術研究機関等の職員で、経済関係分野において将来有望視される若手指導者を日本に招聘し、企業や地域の訪問を通じて日本経済産業の理解を深めても

らうとともに、我が国の各界で活躍する要人との交流を通じて、次世代のアジア各国を担う指導者の対日理解を促進する目的で招聘事業を実施した。

19年度は、我が国と中国との、より一層の経済関係の強化・信頼関係の構築などを目的として、中国共産党青年幹部代表団10名を日本へ招聘した。中国で関心が高まりつつある「環境」をテーマとし、都内・北海道・京都において環境に対する様々な取組みを行う企業等の視察を実施した。また、意見交換の場などを設けたことで、我が国の環境分野関連の諸政策に対する中国側の理解を深めてもらった。

④アジアインダストリアルツアー

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/industrial.html>

在日アジア外交官(商務官等)の日本経済及び地域産業理解、地域経済リーダーとの交流を図るとともに、アジアの外交官同士の相互交流を促進することは、これら諸国とわが国の円滑な経済交流に資する有意義な活動である。

19年度には、在日アジア外交官を対象に地方都市を訪問し、生産現場視察を含むテーマ型のインダストリアルツアーとして、「北海道農牧畜・観光産業視察」及び「愛知産業遺産視察」の2件を実施した。

1)北海道農牧畜・観光産業視察

かねてアジア諸国からの関心が高い北海道地域の農畜産加工業及び観光による経済活性化を切り口として、アジア諸国の在京大使館関係者を対象に、北海道各地における酪農、地域おこし、商業観光についての取組みを視察し、北海道経済産業への理解を深める2泊3日のインダストリアルツアー事業を実施した。

2)愛知産業遺産視察

近代化産業遺産の活用による地域経済の活性化に向けた取組みを本格化させるよう今回は、国内外の産業遺産の有識専門家を交え、名古屋及びその周辺の産業遺産を視察するアジア・インダストリアルツアーを実施し、アジア諸国の在日外交官を対象とした。

⑤アジア問題調査

アジア地域における経済環境の動向に即応した形で、時々的重要かつ緊急度の高い問題について、有識専門家からなる調査チームを現地に派遣し、関係機関や企業を訪問、取材・意見交換等により、当該問題の現地実情・実態を把握し、いち早く我が国の関係産業界・行政機関へ参考情報を提供する事業で、19年度には、以下の3件の調査を実施した。

1)中央アジアの対ロシア関係の新展開(トルクメニスタン、タジキスタン)

URL <http://www.IIST.or.jp/j/contents/asia/cazia-russia.html>

11月20日～30日実施

中央アジア諸国の中で未だ研究者が少ないために調査の遅れているトルクメニスタン及びタジキスタンに各1名の専門家を派遣し、「中央アジアの対ロシア関係の新展開について」との共通テー

マのもと、変わりつつある中央アジアの現状を探り、研究成果を広く関係先に供することを目的に実施した。

なお、同調査の結果については、前述のとおり、2008年2月4日に開催したIIST・中央ユーラシア調査会公開シンポジウムにおいて両専門家から報告した。

2) インド・イノベーションシステム現地調査

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/india-innovation.html>

11月30日～12月7日実施

研究開発拠点の国際化の観点から、グローバル経済化が進展する中で、直接世界経済と結びついて大きな成果をあげるインドのイノベーションシステムの現状について、専門家を派遣して現地調査を実施し、今後のインドのイノベーションシステムの発展と日印の連携の動きを展望した。

なお、同現地調査の結果については、前述のとおり、2008年2月22日に開催したISTアジア研究会公開シンポジウムにおいて専門家から報告した。

3) メコン地域陸路実用化実証走行試験同行調査

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/china-mm.html>

12月17日～23日実施

第2メコン国際橋の開通により、タイとベトナム間の陸上輸送に日系企業の関心が高まっていることから、2007年10～12月にかけて、メコン地域において、物流のスピード化、効率化を目指した陸路実用化のための実証走行試験を実施したが、当センターでは専門家を同行させ、物流関連インフラや通関手続き等の現状調査を行なった。

⑥ アジア要人招聘

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/middle/asia-invitation-program.html>

アジア諸国より主に経済産業政策等に携わる省庁の大臣クラスなどの政府高官、経済団体の指導者等の要人を個別に招聘して、我が国の政治・行政・経済各界の要人との意見交換や産業視察などを通じて、対日理解と人脈形成を促進するとともに、招聘要人を講師とする講演会などを開催して、当該国の経済産業状況の紹介に務めた。

19年度においては今後の一層の経済連携強化を視野に入れて、カザフスタン(2名)及びベトナム(2名)から、2件、計4名を招聘した。

2. 予想される事業実施効果

本事業では、激動するアジア地域の経済情勢に関する磁極を得たテーマを取り上げた講演会、セミナー、研究会、調査、産業視察などの事業を通じて、我が国の機械工業等を取り巻く国際的な環境の変化をいち早く捉え、最新情報として行政機関や企業、また広く一般参加者に提供することができたが、これらの情報を踏まえて策定された政策や企業がより効果的・効率的に実現できるよう、アジア諸国との相互理解及び人材育成を促進する交流や研修などの事業により、我が国とアジア諸国との機械工業産業の経済交流の発展・促進に寄与することが期待される。

3. 本事業により作成した印刷物等

①アジア問題講演会・研究会

「平成 19 年度 テーマ別研究会」IIST アジア研究会～日本企業のアジア事業戦略～ 報告集

「平成 19 年度 テーマ別研究会」IIST・中央ユーラシア調査会

～ 中央ユーラシアへの多角的アプローチ Vol. 7 ～ 報告集

②アジア新市場開発ミッション派遣

「平成 19 年度 アジア新市場開発ミッション派遣」～メコン圏経済交流促進ミッション～ 報告書

「平成 19 年度アジア新市場開発ミッション派遣事業」ラオス SEZ 政策広報支援ミッション 報告書

③アジア若手有望指導者招聘

「平成 19 年度アジア若手有望指導者招聘事業」～中国共産党青年幹部代表団～ 報告書

④アジアインダストリアルツアー

該当なし

⑤アジア問題調査

「平成 19 年度アジア問題調査事業」～中央アジアの対ロシア関係の新展開～ 報告書

「平成 19 年度アジア問題調査研究事業インド・イノベーションシステム現地調査」報告

「平成 19 年度アジア問題調査事業」メコン地域陸路実用化実証走行試験同行調査 報告書

⑥アジア要人招聘

■「平成 19 年度アジア要人招聘事業—カザフスタン」～カザフスタン産業貿易省幹部～ 報告書

4. 事業内容についての問い合わせ先

団体名： 財団法人 貿易研修センター（ボウエキケンシュウセンター）

住所： 105-0001

東京都港区虎ノ門 1-1-20 虎ノ門実業会館 2 階

代表者： 理事長 塚本 弘（ツカモト ヒロシ）

担当部署： アジア部 （アジアブ）

担当者名： 富所 香織（トミドコロ カオリ）

電話番号： 03-3503-6621

F A X： 03-3501-0550

E-mail： tomidokoro@iist.or.jp

U R L： <http://www.iist.or.jp>

1) 中央アジアの対ロシア関係の新展開（トルクメニスタン、タジキスタン）

URL

2) インド・イノベーションシステム現地調査

URL

3) メコン地域陸路実用化実証走行試験同行調査

URL <http://www.iist.or.jp/j/contents/asia/mekong-landroute.html>

⑥アジア要人招聘

URL